

第35回大会

中国・四国・九州地区

生涯教育実践研究交流会

「頑張ろう熊本・大分！復興支援大会！」



- 期 日 平成28年5月21日(土)～22日(日)
- 会 場 福岡県立社会教育総合センター
- 主 催 福岡県教育委員会
日本生涯教育学会九州支部
- 主 管 中国・四国・九州地区生涯教育実践研究交流会
第35回大会実行委員会
福岡県立社会教育総合センター

テーマ 「未来の必要」への挑戦

「地方創生」の推進と「一億総活躍社会」の実現等が叫ばれています。学校と地域が一体となって地域創生に取り組もうと言うのです。地方の知恵と工夫が問われています。

一方で、今や地方は、過疎・人口減・地域消滅の危機的状況にあり、多くの地域課題を抱えています。このような中で、地域の活性化は、行政は基より、生涯教育実践者や「チーム地域」が抱える喫緊の課題になっています。「待ったなし」です。

さて、中国・四国・九州地区の生涯教育・社会教育の実践者の皆様が、自らの活動事例を引提げて手弁当で集うこの「実践研究交流会」も、第35回目を迎えることになりました。本会が35回も継続できる背景には、各県の実行委員の皆様の地域の社会教育を「何とかせんといかん！」という熱き思いがあり、それが「手弁当方式」の「継続開催」のエネルギーになっていると確信しています。各県の実行委員の皆様に心から感謝申し上げます。

今回も、各県の実行委員の皆様の推薦により28の実践事例が集まりました。また、例年大好評の三浦清一郎先生の特別報告「現行施策で地方創生はできませんー国土の均衡発展：その原理と方法」と、特別企画として第1部「『小中学校聴講制度』の先見性と未来性」、第2部「『生涯教育実践研究交流会』の意義と使命」を企画しました。「『消滅自治体』を救うのは何か」や、高齢者の知恵の活用や地域と学校が一体となった学校活性化の具体策等が浮き彫りにされると期待しています。また、「チーム学校」による「学校・家庭・地域等の一体的連携の在り方」や「地方創生に向けて地域の実践者が実行委員となって地域を創生する手順手法」について、本交流会の基本理念である「未来に向けての必要」を提言して参ります。

本会をご支援・ご指導くださいます福岡県教育委員会、福岡県立社会教育総合センターに心より厚く感謝申し上げます。

中国・四国・九州地区生涯教育実践研究交流会 代表世話人 古市 勝也

中国・四国・九州地区生涯教育実践研究交流会 第35回大会 実行委員

河合 淳一(鳥取県)鳥取県教育委員会事務局社会教育課	田上 明利(熊本県)熊本県山鹿市教育委員会
原田 尚(島根県)島根県浜田市立雲城小学校	三角 幸三(熊本県)熊本県宇城市教育委員会
渋谷 秀文(島根県)島根県益田市立吉田小学校	岡田 正彦(大分県)国立大学法人 大分大学
吉岡 康行(広島県)国立江田島青少年交流の家	齋藤 貴雅(大分県)大分県教育庁社会教育課社会教育班
正留 律雄(広島県)広島県大野子ども体験活動・ボランティア活動支援センター	池本 要(宮崎県)NPO法人 家庭・青少年教育ネットワーク
福原 洋子(岡山県)岡山県教育庁特別支援教育課	竹内 一久(宮崎県)宮崎市立江南小学校
東川 絵葉(岡山県)岡山県教育庁生涯学習課	佐藤健一郎(宮崎県)宮崎県五ヶ瀬町立三ヶ所小学校
赤田 博夫(山口県)山口県宇部市上宇部ふれあいセンター	寺前 重幸(鹿児島県)前鹿児島県立青少年研修センター
矢田部敏夫(山口県)山口県防府市立野島小中学校	諏訪原裕子(鹿児島県)前かごしま県民大学中央センター
坂井 孝吏(高知県)高知県大月町立大月中学校	鶴木 孝夫(鹿児島県)鹿児島県始良市教育委員会
宮川 貴史(高知県)高知県教育委員会事務局スポーツ健康教育課	竹添 辰也(鹿児島県)鹿児島市教育委員会教育部生涯学習課
高木 義夫(高知県)NPO高知県生涯学習支援センター	大城喜江子(沖縄県)沖縄県浦添市立森の子児童センター
和田 瑞穂(愛媛県)愛媛県松山市立北条南中学校	谷本 理佐(福岡県)福岡県教育庁教育企画部社会教育課
馬場祐次朗(徳島県)国立大学法人 徳島大学	森本 精造(福岡県)(一財)サンビレッジ茜
関 弘紹(佐賀県)佐賀県県民環境部まなび課	中園 宏(福岡県)福岡県立社会教育総合センター
林口 彰(佐賀県)(財)孔子の里	正平 辰男(福岡県)純真短期大学
紫園 来未(佐賀県)オフィス しおん	三浦清一郎(福岡県)生涯学習・社会システム研究者
鴻上 哲也(佐賀県)佐賀県伊万里市立大坪小学校	大島 まな(福岡県)九州女子大学
田中 穂積(長崎県)長崎県教育庁生涯学習課	古市 勝也(福岡県)福岡教育大学
武次 寛(長崎県)長崎県諫早市多良見公民館	

Time Schedule 1st day 5.21 Sat.

9:30	10:15	10:45	12:30	13:00
受付	開会式	実践発表.1	昼食	受付
玄関ロビー	2F 講堂	第1会場:2F 第4研修室 第2会場:2F 自由研修室 第3会場:4F 視聴覚室 第4会場:4F 大研修室	玄関ロビー	

13:30	16:15	16:30	17:00	17:30	20:00
実践発表.2	移動	特別報告 現行施策で地方創生はできません - 国土の均衡発展:その原理と方法 - 「消滅自治体」を救うのは、 小中学校の地方分散事業である - 報告者 三浦 清一郎 (2F 講堂) フリータイム			第35回大会交流会
第1会場:2F 第4研修室 第2会場:2F 自由研修室 第3会場:4F 視聴覚室 第4会場:4F 大研修室					



■日時：1日目の夜 17：30～ ■場所：2F 体育館

「実践研究交流会は、実践事例の発表がメインなのか、交流会がメインなのか？」と問われるくらい、毎年、毎年大盛況の交流会です。ちょっと緊張気味だった参加者の皆さんが、料理をほおぼり、地酒を酌み交わして、「お国自慢」をし、「村おこし」の苦労を話し合い、「人づくり」の楽しみを語り合います。その熱気に、人々の顔は真っ赤、会場は熱気ムンムン！今年も、全館貸し切りです。どうぞ心おきなく、お楽しみ下さい。

なお、せり市の売り上げは次年度の運営費の一部とさせていただきますので、御了承下さい。

Time Schedule 2nd day 5.22 Sun.

8:30	9:00	11:45	12:00
受付	特別企画 インタビュー・ダイアログ 第1部 「小中学校聴講制度」の先見性と未来性 - 予算の要らない「生涯教育」、「世代間交流」、 「教室の覚醒」、「高齢者の脳トレ」- コーディネーター 三浦清一郎 第2部 「生涯教育実践研究交流会」の意義と使命 - 「仕掛人」に聞く組織化の手順・方法・成果と実態- コーディネーター 古市 勝也	総括 閉会式	昼食
玄関ロビー	2F 講堂	2F 講堂	



■日時：5月21日・22日 ■場所：1F 交流ホール

大会開催中、参加者の皆さんが携わられている「まちづくり」や「人づくり」のイベントのポスターを掲示しています。どうぞ、ご覧下さい。



第1会場●2F 第4研修室

■司 会／眞鍋 幸一 (愛媛県)年輪塾 塾生
佐藤 倫子 熊本県生涯学習推進センター 社会教育主事

分科会の進め方

10:45~10:50

1 4つの知恵の輪!地域を越えた文化祭スタンプラリー

10:50~11:20

山本 明子^{めいこ}(鳥取県倉吉市) 倉吉市明倫公民館 主事
佐々木 由香(鳥取県倉吉市) 倉吉市関金公民館 主事

各公民館の担当区域をまたいだスタンプラリー構想は、倉吉市4つの地区の公民館主事研修会が生み出した連携事業である。目的は住民交流の拡大と文化活力の向上である。スタンプラリーは、カードデザイン作成や当日の運営・押印に住民を巻き込むことで地区内の協力体制を活性化し、他地区の事業を見学することに「景品」を準備して参加の呼び水とした。「スタンプラリー」も「景品」も、他地区訪問の契機となり、結果的に、個別文化祭の参加者が増加し、受け入れ側にも、訪問側にも、「刺激」と「気付き」と「やる気」を生み出した。その背景には、地区公民館どうしの日頃の連携があった。

2 伊万里をつくり 市民とともにそだつ 市民の図書館

11:25~11:55

末次 健太郎(佐賀県伊万里市) 伊万里市民図書館 係長

「美しい図書館で過ごしたい」ランキング、西日本の1位に選出された伊万里市民図書館を、「日経」は、『どんな使い方をしたいか、市民の意見を取り入れた図書館』として紹介している。1位選出の理由には、ソファから開架スペースまで利用者の使い易さへの配慮が挙げられており、他にも400を超える座席や公開書庫、伊万里学コーナー、ボランティア向けの部屋など「滞在型図書館」としての設備が充実している。また、住民サービスの力点は、子どもの読書推進、リクエスト・リファレンスへの対応、自動車図書館による巡回、イベントの開催など多岐に渡る。「市民との協働」を掲げ、図書館友の会である「図書館フレンズいまり」との連携も密である。

3 民設民営古民家体験工房「とらいかん」での体験、交流、学習プログラム 12:00~12:30

柴山 節子(長崎県佐世保市) 古民家体験工房とらいかん 代表

「とらいかん」は、築100年の自宅を改修した民設・民営の生涯学習・交流センターである。「とらい」は、「Try」であり、「渡来」でもあり、交流のトライアングルでもある。「かん」とは、感動の「感」、学べる館の「かん」、感謝の「感」でありたいという願いを込めている。すでに、体験民泊旅館業認可を得、農林新事業創出6次化認定も受けている。農家と連携し、エコツーリズムと連携し、体験、展示、販売、宿泊、情報発信などを通して、人々が集い、出合いを演出し、自然や農業の豊かな体験の機会を提供している。定例の事業は、各種体験教室、軽食ランチ、体験民泊などを組み合わせ、異文化交流、健康寿命、活力ある地域づくりなどを目指している。



第2会場●2F 自由研修室

■司 会／奥田 聡 大分県立社会教育総合センター研修企画課 社会教育主事
神田橋芳幸 山口県防府市教育委員会 社会教育主事

分科会の進め方

10:45~10:50

1 「地域の記憶遺産:八幡大空襲を語り継ぐ」 —「語り部」の発掘・「聞き書きボランティア」の養成・記録集の発行・教育への応用— 10:50~11:20

渡辺 いづみ(福岡県北九州市) 北九州市立平野市民センター 館長

昭和20年8月8日、爆撃により、焦土と化した八幡。中心部が被災し、死傷者は約2,500人、焼失家屋は14,000戸にのぼった。戦後70年の節目に、センターでは聞き書きグループ「平野塾15名」を養成し、戦災の語り部を発掘し、地域住民の財政的支援を得て、「八幡大空襲聞き書き資料集」第1集(平成27年)と第2集(平成28年)を発行した。「資料集」は市内の全小中学校に配付され、第2集発行までには、中学生による聞き書きや小中学生の感想文コンクールも実現した。また、昨夏の戦後70年市民の集いでは「語り部座談会」、「太平洋戦争を歌った昭和万葉集の子ども朗唱」を行い、歴史の風化を抑えた。

2 防災教育キャンプで地域をつなぎ、子どもと自然をつなぐ 11:25~11:55

小園 貴寛(熊本県山鹿市) 熊本県教育庁教育総務局社会教育課 社会教育主事

防災教育キャンプは4年目の連続事業である。初年度は青少年教育施設で、2年目は小学校、3年目以降は中学校を中核拠点とした。県の危機管理防災課の助言を得て、運営委員会と実行委員会の2本立て組織を活用し、自助、共助、公助を意識化し、参加者の防災対応能力の向上を目的とした。地域と中学校が連携した防災訓練には、学校、PTA、地域の諸団体、消防、自衛隊が参加し、生徒の参画を重視したことで、学校と地域の連携は元より、地域諸団体の関係性が深まり、地域人材の掘り起こし、郷土愛や次世代の育成に資する所が大きかった。

3 みさと家庭教育10選(実践) ～地域が発想し、地域が実践する「家庭の教育力」向上戦略～ 12:00~12:30

鎌田 次郎(宮崎県美郷町) 美郷町教育委員会 主幹

企画と実践の中心は、「美郷町親子学び合い実行委員会」である。目的は、地域で支える家庭教育ビジョンの作成と実践である。発想は、「地域づくり」、「地方創生戦略」とも連動させている。具体的には、まず家庭教育の重要10項目(キャリア、人権、読書、あいさつなど)を設定し、家庭教育の実践ビデオを制作して、ケーブルテレビで放映した。また、子どもと地域をつなぐ「ミステリーツアー」や「みさとでお仕事,work! ワク!」などのプログラムを並行実施した。成果は、家庭読書の普及、家庭教育推進大会の参加率や授業参観日の出席率の向上などに顕著に現れている。また、アシスト企業の協力を得て、家庭教育支援体制の整備も進んだ。



第3会場●4F 視聴覚室

■司 会／富原 邦彦 福岡県教育庁北九州教育事務所 主任社会教育主事
鶴 ちふみ 佐賀市立本庄公民館 主事

分科会の進め方

10:45~10:50

1

井原市「夢源」・「みらいのひかりをつなげ」プロジェクト
～若者よ、自分をつくり、仲間をつくり、夢をつくり、地域の未来を拓け～

10:50~11:20

藤井 剛(岡山県井原市) 井原市教育委員会学校教育課 指導主事(主査)

チーム夢源は、夢源Makers(33名)と夢源Supporters(38名)で構成(H28.2現在)し、平成26年から始動している。Makersは中高生等、Supportersは支援する大人達である。実行委員会を中央公民館に置き、地域活性化の活動に若者の参加を促し、彼ら自身の成長と実践力を身につけさせることが目的であるが、若者を支援する多くの大人が集まり、保護者も加わり、大人達自身の出会いを含め、世代を超えた交流が生まれている。定例会「You & Meカフェ」には、両者の思いと知恵が結集する。事業は、岡山県が主導する「若者が主役!地域まるごと活性化事業」の趣旨に則り、若者の思いを生かした様々な活動を展開している。

2

中学校をコミュニティづくりの核とし、地域活動を通して中学生の「志」を育てる
～キャリア教育で地域と学校を繋ぎ、地域の力を借りて豊かな体験活動を創る～

11:25~11:55

福本 修司(島根県) 島根県教育庁社会教育課 社会教育主事

発端は、学校の総合的な学習の時間を活用した「生き方発見プロジェクト(ふるさと教育)」であったが、後に、「学校・家庭・地域の連携を目的とした」市の「教育活動促進事業」の一環に位置づけ、伯太町の地域教育活動運営委員会と連携して、横のつながりの強化を重視した。内容は、中学生のキャリア教育に地域の体験活動をふんだんに組み合わせ、4日間の職場体験を軸に、関係者をお招きした発表会、「マイ醤油づくり」、福祉・介護体験、地域の祭りや運動会などでのボランティア活動である。活動状況はケーブルテレビやまちかどニュースで発信しながら、地域の思い、学校の願いを付き合わせながら、中学生の夢や目標を育んで行くことを重点としている。

3

高校はないが、高校生はいる:「With You 翼」
～南部町高校生サークルの地域貢献と自己教育～

12:00~12:30

大下 真史(鳥取県南部町) 南部町教育委員会人権社会教育課 主幹

高校生の町外進学は、中学までの相互交流を希薄化し、地域との関係を隔絶する。地域での人的交流を失えば、高校生の孤立化や都市部への流出は歯止めが利かない。それがサークル結成の動機である。「With You 翼」は、町の子ども会育成連絡協議会に加入し、メンバーをジュニアリーダーとして位置づけ、地域活動を開始し、体験活動や仲間との出会いの機会を創出している。連絡・周知にはLINEを活用し、組織にこだわらず、活動内容に合わせてリーダー役を決めている。平成26年度の地域活動は9回、参加者延べ36名、27年度は13回、延べ108名が参加し、地域貢献を兼ねた居場所づくりに成功している。



第4会場●4F 大研修室

■司 会／前川久美子 熊本県教育庁教育総務局社会教育課 社会教育主事
江島 敏幸 佐賀市立兵庫公民館 主事

分科会の進め方

10:45～10:50

1 退職後の人生をブログで紡ぐ ～後期高齢者による生涯活動の情報発信～

10:50～11:20

せのうえ

瀬上 征一（鹿児島県始良市） 加治木高齢者学級 受講生

ブログ名は「おじゃったもんせ」（いらっしゃいませ）。退職後、14年にわたる自身の地域活動、ハーモニカ・サークル、郷土史、園芸、料理講座や高齢者学級における生涯学習の経験と成果を2日に1回の割合で情報発信して4年になる。結果的に、コンピューター上に電子自分史の記録が残り、合わせて思いがけないブログ訪問者との交流の拡大に繋がっている。訪問者はさまざまだが、自身の充実はもちろん、他者の反応からブログ効果を確認できている。これまでのトータル閲覧は837,650、トータル訪問者数は204,239（一日当たり116人）である。

2 おごおり熟年集い塾 ～学習と交流を目的とした市民による市民のための手づくり講座～

11:25～11:55

重村 太次（山口県山口市） おごおり熟年集い塾 主宰

「塾」の目的は、生涯学習、交流の拡大、生きがいづくりである。講師の発掘から、会場確保、教室準備、広報、受付まで、プログラムはすべて手づくりであるが、都市部では、手づくりでも生涯学習講座が成立することを実感している。原則ワンコインの受益者負担の方式を取っている。参加者の要望を勘案しながらプログラムを決定しているが、試行錯誤の結果、歴史講座に人気が集中している。もとより、長州は歴史の宝庫であり、近隣に歴史関係の講師も多い。会場は、文化活動に限って無料で使用のできる山口市小郡文化資料館に固定している。年6回の開催で6年間継続しているが、受講生は、達成感を持ち、評価は上々で、年々参加者が増加し、会場は満席状況である。

3 福岡県立ありあけ新世高等学校「てっぱん部」の社会貢献活動

12:00～12:30

「てっぱん部」（福岡県大牟田市） 福岡県立ありあけ新世高等学校

本校は地域貢献活動を重視している。大牟田市はお好み焼き屋さんが多く、お好み焼きを通して地域貢献ができないかとボランティアグループ「てっぱん部」が生まれた。その後「てっぱん部」の活動は部活動となり、大牟田市内外の多くの地域イベントで活動し、町の賑わいに貢献している。



第1会場●2F 第4研修室

■司 会／東川 絵葉 岡山県教育庁生涯学習課 社会教育主事(主幹)
原田 尚 島根県浜田市立雲城小学校 教頭

分科会の進め方

13:30~13:35

1 家庭教育支援チーム“親だから”の理念と実践 ～教育現場と連携して、きめ細かく繋ぐ・繋がる～

13:35~14:05

緒方 恵理子(広島県尾道市) 尾道市向東地区家庭教育支援チーム“親だから” 代表

活動は平成20年からスタートした国の委託事業のモデルケースとして始まった。目的は全ての家庭にきめ細かな教育支援をすること、具体的には家庭教育学習の機会を提供し、子育てに関する情報を発信し、関係機関と連携して教育相談にも対応している。チームは、子育てサポーター、民生・児童委員、PTA、社協、青少年健全育成協議会、その他学識経験者有志で構成、幼稚園や小学校でのCAP講座(子どもへの暴力防止)を始め子育てサロンから小6まで、月齢にあわせた学習を提供。また、夏休みなど休暇中の様々な「子ども講座」、防災教室、音楽コンサート、ハーフ(2分の1)成人式なども実施している。特に赤ちゃんと中学生との「保育交流」は、家庭教育支援の大きな役割を果たしている。活動は教育現場との話し合いを経て決定してきたので、関係機関との信頼関係が確立し、家庭教育支援に関する地域の協働が成立している。

2 学童保育のない町の放課後の教育力 ～地域ぐるみの放課後子ども教室～

14:10~14:40

岩木 和美(山口県上関町) 上関町地域教育ネット 統括コーディネーター

平成27年度は、全校児童60余名のうちの58名が参加し、11名のスタッフのローテーションでプログラムを運営している。上関の放課後子ども教室は、平日は、放課後18:30まで、長期休暇中は7:30~18:30まで、毎日である。学校との連携ができて、小学校施設を利用している。地域ぐるみの子育て発想が浸透し、社会福祉協議会の「いきいきサロン」との交流、料理教室、竹細工教室、絵画教室、クロスカルチャーなどプログラムも充実してきている。子どもは異年齢集団の活動に慣れ、お互いを思いやる関係が育ち、地域の人々との交流をして、子どもにも大人にも異世代間交流の効果が現れている。

ティータイム

14:40~15:05

3 「教育・保健福祉」の連携によるアウトリーチを基盤とする家庭教育支援 15:05~15:35

廣末 ゆか(高知県) 中芸広域連合保健福祉課 課長

平成22年以降、中芸地区では、「子どもの育ち」を重視し、分野横断的な関係者を集めた「子ども支援部会」を結成し、家庭教育支援事業を展開している。この過程で、就学前の子どもの4割に発達上の心配があることが分かり、通常の母子保健事業だけでは、個別家庭の子育て不安には対応できないと判断するに至った。そこで「伴走型の支援体制」を築くべく、教育と保健福祉の連携による訪問型(アウトリーチ)支援の方法を取り入れた。具体的には、「家庭教育支援チーム」の編成、NPO職員による学校・学級支援、保護者へのヒアリングを導入し、個別家庭の状況に即した「聞き取り」、「観察」、「対応」を行ない、潜在化している事象やニーズへの予防的な支援活動ができるようになった。

4 「家庭教育地域リーダー養成講座」の実施 ～「くまもと親の学び」プログラムをマスターしよう～

15:40~16:10

石井 憲子(熊本県熊本市) NPO法人教育支援プロジェクト・マスターズ熊本 理事長

当該NPOが熊本市の委託を受けて、「家庭教育地域リーダー養成講座」を実施して3年、3回目になる。講座の企画運営を担当した。講座は、毎週1回、全10回で、中央公民館を会場とし、幼稚園や学校の見学研修も取り入れている。各回のテーマに合致する講師を招聘した。講座の力点は、保護者の集まりで話し合いの組み立てや進行のできるファシリテーターの養成においた。ワークショップの実習等を通して、実際の現場で進行役を務める受講生も育ってきた。



第2会場●2F 自由研修室

■司 会／榎園 成人 鹿児島県始良市教育委員会 社会教育指導員
谷上 元織 島根県益田市教育委員会社会教育課 社会教育主事

分科会の進め方

13:30~13:35

1 児童館を核にした防災の地域づくり ～中学生の地域活動への熱意が地域を動かす～

13:35~14:05

桃原 弘子(沖縄県浦添市) まちづくりNPOうらそえ 職員

「森の子児童センター」の近くの川は海拔2mしかなく、地域の安全対策は喫緊の課題である。そこで「子どものための児童館とNPOの協働」に対する助成金を活用し、センターを利用する中学生を中核にして、防災学習、社協と連携した福祉の体験を積み上げ、地域の散策・点検から近隣の福祉マップを作成するまでに至った。児童館を拠点に、地域自治会、社協、学校など各種組織と協働を模索する中で、保護者の理解を得た中学生の地域活動への熱意が地域住民を動かし、市役所、消防、警察を含む地域ぐるみの防災避難訓練を実施できるようになった。

2 中高生ボランティアグループ「とよかわっしょい」の地域貢献と自分育て 14:10~14:40

河野 利文 ほか中高生ボランティアリーダー2名(島根県益田市) 豊川地区つろうて子育て協議会 事務局

「子育て協議会」は、小学校の支援を目的に結成されたが、小学校卒業後の中高生が地域と疎遠になることに気付き、彼らのためのボランティア活動の舞台を創設した。彼らは、様々な活動機会と役割を得て、地域貢献、ふるさと意識の醸成、自分育てなど一連のライフキャリア教育に生き生きと参加している。活動は、中高生の定例の会議とサポーター会議を同時並行的に進行させ、各種イベントでの販売活動、保育園での読み語り、地域の清掃・美化活動、運動会のスタッフなどを企画・実施している。グループの活動は、中高生を成長させるに留まらず、周りの大人の意識を変え、小学生が憧れて、目標とするモデル事業になり得ている。

ティータイム

14:40~15:05

3 サロンと講座を組み合わせる体系化した子育て支援策 ～子育て世代から次世代まで～

15:05~15:35

東 浩二(鹿児島県南九州市) 南九州市教育委員会社会教育課 主幹兼社会教育係長

子どもどうしの遊び、保護者の交流、悩みの相談など地域の要望を受けて、子育てサロンは、平成10年からスタートした。サロンの運営は、子育てサポーターリーダーやサポーターの協力を得て、現在市内4か所に拡大し、毎週開かれている。また、小学校入学時前の保護者向け「子育て講座」は、市内の全小学校で実施している。更に、幼稚園・保育所、小中学校と連携した「家庭教育学級」の開催、中・高生を対象とした「次世代向け子育て講座」を企画し、やがて親となる世代には、子どもとのかかわり方や交流体験を重視している。すべてのプログラムは子どもの成長段階に合わせて、保護者の自覚と教育力の向上を目指した子育て支援策の体系化を目的としている。

4 わくわく交流広場 ～「子育て支援委員会」が作り出す活力と協働～

15:40~16:10

森本 綾子(鳥取県鳥取市) 鳥取市立末恒地区公民館 主事

「子育て支援委員会」は、平成14年、学校週5日制の受け皿として誕生し、公民館事業の一環として位置づけ、地域自治会、老人クラブ、婦人会、PTAなどが連携して、当番制で行事の企画・運営にあたってきた。目的は、地域、学校、保護者の協働による子どものあそびと交流の促進である。わくわく交流広場の現在の活動は、末恒小学校の昼休みと清掃の時間を活用し、「昔遊び」と「ものづくり体験」の2本立てで、夏休みを除いて年6回実施している。「ものづくり」の企画・指導については、鳥取大学に本部を置く「鳥取ものづくり道場」に依頼している。活動の継続によって、世代を超えた交流が生まれ、地域の活力の向上に繋がっている。



第3会場●4F 視聴覚室

■司 会／東 恭司 福岡県教育庁京築教育事務所 主任社会教育主事
松下 成悟 鹿児島県西之表市教育委員会社会教育課 課長

分科会の進め方

13:30~13:35

1 学びあうコミュニティの創出と支援者育成プログラム ～住民の「参加」と「協働」を進めるために～

13:35~14:05

江口 直隆(佐賀県佐賀市) 佐賀市立循誘公民館 主事

本事業は、佐賀市が進める「参加と協働のまちづくり」を実現していくために、地域活動の支援者である公民館職員の力量形成を目標とした。行政(協働推進課)と公民館が協働して、「持続可能な地域活動を支援する」ことを目的とした全10回の公民館職員研修を実施した。公民館が問われたのは、どうすれば住民の声や地域課題を「可視化」できるか、住民同士のネットワークを作り、課題解決にどう取り組めるかということである。研修の成果は職員の意識の高揚に繋がり、各公民館のワークショップやまちづくり会議に繋がり、地域診断プログラムの開発に繋がった。地域課題に取り組む校区は25年度の3校区から27年度の16校区に拡大した。

2 お父さんが「気軽に子育て!」をする仲間づくり活動:「パパラフ」

14:10~14:40

馬場 義之(福岡県久留米市) パパラフ 代表

2012年活動開始。子育て中のパパたちが集まって、パパ、ママ、子どもたちが笑顔で楽しく子育てができるようにパパ友のコミュニケーションを深めます。「パパラフ」は、子どもと一緒に楽しむ「パパ式、子育てワークショップ」;それは、子どもたちへの贈り物!!活動内容は、毎月1回、久留米市子育て交流プラザ「くるるん」にて座談会を開催。子どもたちが遊んでいる広場にちゃぶ台をおいて井戸端会議!パパならではの子育て相談から、パパたちの特技や趣味の話で盛り上がります。パパの特技や趣味で子どもたちと一緒に楽しむことを提案。パパ自作のワークショップは、田植え、稲刈り、父子キャンプ、カニ釣り、魚釣り、段ボールワークショップ、パパサイエンス教室、BBQ、クリスマスバルーンツリーと色々開催しています。

ティータイム

14:40~15:05

3 NPO「協育」アドバイザーネットの理念と方法～5年間の成果と総括

15:05~15:35

安達 美和子(大分県別府市) NPO法人大分県「協育」アドバイザーネット 事務局長
佐藤 真由美(大分県別府市) 人と本を結ぶ読書支援プロジェクト「ゆい(結い)」 主宰

組織の発端は大分大学高等教育開発センターが主催した「協育アドバイザー養成講座」の受講生組織である。平成23年度からNPOを設立した。目的に掲げる理念は3つ:「高まること」、「広めること」、「つなげること」である。そのため定例の会議と研修を企画し、会員相互の交流、情報の交換、モデル事業・研究事業の立ち上げ、年6回の会報を発行して他団体・組織への発信などに力を入れてきた。読み聞かせサークル「結い」の結成、会員相互のつながりの強化、各種支援活動の充実などが成果である。活動資金は、会員74名、賛助会員31名の会費、事業収入、寄付金でまかなってきた。

4 ホタルを守り、「ホタル舟」を工夫し、町を創る

15:40~16:10

伊藤 孝之(山口県下関市) 豊田町観光協会 観光開発部長

平成2年以来25年続いている事業である。活動の中心は下関市商工会青年部豊田町支部の約30名である。毎年6月中旬の2週間、木屋川上流に「ホタル舟」を浮かべて豊田町の自然を満喫してもらう。夜間の事業であるため、安全の確保、雨天時の対応、キャンセル待ちの対応、交通の便などの課題に対応しながら、子どもから地元企業までが準備に参加している。ホタル舟には、尺八やバイオリンなどの演奏を加えて、毎年3千人の来訪者をもてなしている。例年、舟は満席で、独立採算を貫き、町のPR、環境意識の醸成に成功し、環境大臣賞やふるさとイベント大賞:「ふるさとキラリ賞」を受賞している。



第4会場●4F 大研修室

■司 会／山本 直 山口県阿武町教育委員会 社会教育主事
安藤 能之 福岡県教育庁筑豊教育事務所 主任社会教育主事

分科会の進め方

13:30~13:35

1 「朝活」と「プレゼンサークル」で繋がり、高め合い、実践に踏み出す ～社会人サークルが目指す生涯教育・まちづくり活動の理念と方法～

13:35~14:05

大谷 瑛美(熊本県熊本市) くまかつ!主宰・熊本プレゼンサークル 代表

「くまかつ!」と「熊本プレゼンサークル」は、いずれも2013年より熊本市内にて活動している社会人サークルである。「くまかつ!」の活動の中心は朝活で、毎週月曜日の朝、出勤前の一時間を利用してセミナーのシェアや読書会、英会話の勉強等を行っている。「熊本プレゼンサークル」は、参加者全員が6分間程度のプレゼンテーションをし、それについてお互いにアドバイスをし合ったりディスカッションをするなどして、プレゼンテーションスキルを高めつつ交流をはかっている。いずれの活動も、実践を通して参加者同士の繋がりを強め、新たな活動を生み出しながら熊本を「盛り上げる」契機となっている。

2 愛媛のおやじ井戸端会議から全国大会の開催まで ～「おやじの会」が作り出す人的ネットワークと地域活動～

14:10~14:40

佐川 良(愛媛県松山市) 愛媛のおやじ井戸端会議 会長

「愛媛のおやじ井戸端会議」は、愛媛県内のおやじの会の連合会で、平成24年に発足した。同年、宮城で行われた第11回全国おやじサミットin宮城に参加、そこで全国サミット開催に名乗りを上げ、27年には第13回全国おやじサミットin愛媛を成功させた。目的は、住み良い地域づくり、子ども達の健全育成、おやじの居場所づくりと人的交流の促進などである。大会などの特別活動については資金調達の工夫をするが、日常活動の予算のない純然たる手弁当の会である。会を重ねるに従って、各地域でおやじ達が個々に動き始め、祭りなどの地域行事、町内会行事などに積極的に参加している。

ティータイム

14:40~15:05

3 「パートナーデー」の啓発として、公募の「一言メッセージ」を組み合わせた 「結い」の会の男女共同参画への挑戦

15:05~15:35

草場 真智子(佐賀県佐賀市) 佐賀市男女共同参画ネットワーク「結い」 会長

2/14はバレンタインデー、3/14はホワイトデー、「結い」の会では、佐賀市が制定した4・14パートナーデーにちなんで、「一言メッセージ」を公募する。事業はすでに10回を数え、その募集、審査、表彰、広報の過程は、市内すべての小中学校を巻き込み、多くの地域企業の協賛を得て実施し、優秀作品の発表を通して、市民の男女共同参画意識に切り込んでいる。メッセージの選考は、「子どもの部」と「大人の部」の2部構成で審査を行ない、優秀作品には、何十もの協賛企業から企業名をかぶせた賞が与えられる仕組みにして、Win-Winの関係を創出している。また、優秀作品を出せなかった学校等には、「結い賞」、「学校賞」などを設けて応募意欲を削がない工夫をしている。

4 子どもがきらめく、地域主体の交流・克服体験活動の展開

15:40~16:10

貞苅 えり子(福岡県広川町) 広川町教育委員会生涯学習係 一般職非常勤職員

平成14年度から町内小学校で「土曜教室」を実施。その後、各校区の学校・家庭・地域連携推進会議との協力体制を基盤にして、運営体制と指導体制を構築し、全ての町民が参加できる「土曜教室」を実施。子ども達を地域の中で見守りながら、子ども達がのびのびと遊び、学ぶことのできる場の充実を図った。事業の進化とともに、地域が育む力を知・徳・体の視点から焦点化し、生きる力を下支えする目的を明確にし、学習・交流・克服の3つの体験活動を設定した。具体的な中身は、学習支援に加えて、パソコン教室、料理教室、絵画教室、ファミリースポーツ、通学合宿などで、活動の重点は地域主体による教育の支援体制を組織化することにおいた。その結果、子ども達は意欲的に活動に取り組み、落ち着いた態度で学習したり、仲間や地域の人との交流を深めたり、課題を克服して自分達で活動したりすることができるようになった。

1st day
5.21 Sat.

第35回大会 特別報告

■時 間／ 16:30 ～ 17:00 ■会 場／ 2F 講堂

テーマ●現行施策で地方創生はできません
—国土の均衡発展:その原理と方法
- 「消滅自治体」を救うのは、小中学校の地方分散事業である -

報告者 三浦清一郎

2nd day
5.22 Sun.

第35回大会 特別企画

■時 間／ 9:00 ～ 11:45 ■会 場／ 2F 講堂

第1部：9:00～10:10

「小中学校聴講制度」の先見性と未来性

—予算の要らない「生涯教育」、「世代間交流」、「教室の覚醒」、「高齢者の脳トレ」—

小中学校を中核とした市民の聴講制度は、愛知県で創設され、「少年」と「高齢者」を繋ぎ、合わせて、「教育」と「福祉」を繋ぐ教育行政を越えた政策課題です。認知症患者1千万人時代という大ピンチの現在、予算の要らない最も身近な「生涯教育」、「世代間交流」、「脳トレ」の機会でもあります。学校が理解し、社会教育が生涯学習者の掘り起こしを担当し、守秘義務を始めとした「聴講のルール」を確立した上であれば、子どもにも教員にも、「見られる効果」による緊張感と勉学態度のモデルを提供する「教室の覚醒」にも繋がります。当面は、どの自治体においても、個人を対象とした狭い生涯学習として細々と続いてきました。しかし、この事業の本質は、学社連携・教福連携の未来の可能性にあり、「生涯教育・介護予防」プログラムであると発想して、行政のトップや創設者の教育長、実践に踏み切られた校長先生をお招きした次第です。

登壇者：愛知県扶桑町 元教育長(公社 全国公民館連合会理事)
福岡県古賀市 市長
山口県宇部市立上宇部小学校 校長

河村 共久
中村 隆象
増野 淳一

コーディネーター
生涯学習通信「風の便り」編集長

三浦清一郎

<【第1部】登壇者プロフィール>

●河村 共久 愛知県扶桑町 元教育長(公社 全国公民館連合会理事)

現在、(公社)全国公民館連合会東海・北陸ブロック代表理事。平成12年、愛知県扶桑町教育長時代、「いかに開かれた学校作りをするか」を考え、平成14年度から町民の方々が、小中学校の子どもたちと同じ教室で授業を受ける「町民聴講生制度」を創設した。全国に先駆けた扶桑町の「町民聴講制度」は、その後各地のモデルとなり、現在も進行中である。

●中村 隆象 福岡県古賀市 市長

東京大学経済学部卒業後、新日本製鐵(株)に入社し、平成10年に退社する。平成10年福岡県古賀市 市長に初当選以来、現在4期目を務める。平成18年度後期より古賀市立小・中学校で「聴講制度」を導入し、授業及び行事などの教育活動の場を広く市民に生涯学習の場として提供し、合わせて「高齢者外出促進運動」を展開し、高齢者の健康寿命を注視している。

●増野 淳一 山口県宇部市立上宇部小学校 校長

平成27年、母校である上宇部小学校に校長として赴任する。地域とともにあるコミュニティ・スクール構想に取り組み、組織的な学校運営を進め、保護者や地域の願いを実現できる学校づくりを行っている。上宇部公民館と上宇部小学校の「学社連携」企画を実現し、学校から「地域への恩返し」発想で、学校を挙げて地域の方々の「授業参加」を実施している。

●三浦清一郎 生涯学習通信「風の便り」編集長

国立社会教育研修所、文部省、福岡教育大学、シラキューズ大学、九州女子大学などを経て、現在月刊生涯学習通信「風の便り」編集長。晩年は執筆に集中し、近著に、「明日の学童保育」(日本地域社会研究所)、「国際結婚の社会学」(同)、「詩歌自分史のすすめ」(同)、「消滅自治体は都会の子が救う」(同)「隠居文化と戦え」(同)などがある。

第2部：10:25～11:45

「生涯教育実践研究交流会」の意義と使命

—「仕掛人」に聞く組織化の手順・方法・成果と実態—

北海道と中国・四国・九州地区で続いて来た手弁当の生涯教育実践研究交流会はようやく全国に広がりを見せようとしている。福岡を会場とした交流会は35年目を迎えたが、一貫して「実践者」の交流と「実践」の研究に焦点を当ててきた。社会教育は、学校教育に比して予算も行政組織も小規模で、定例化した事業方法も組織も確立しているとは言い難い。にもかかわらず、その守備範囲は巨大であり、その成否は社会の未来を決定する。重責を担って、時に実践者は孤立無援であり、地域を越えた連携を模索し、同志の繋がりを目標にして来た。近年誕生した各地の交流会の「仕掛人」をお招きしてそのロマンと開発の実態をお聞きする。

登壇者：茨城県 鈴木 昭博(茨城県教育庁総務企画部生涯学習課 社会教育主事)
高知県 坂井 孝吏(前高知県教育委員会事務局生涯学習課 主任社会教育主事)
大分県 中川 忠宣(大分大学COC+推進機構 特任教授)
長崎県 降旗 友宏(元長崎県教育庁生涯学習課長、現内閣官房日本経済再生総合事務局 参事官補佐)
コメンテーター：森本 精造(前交流会代表世話人、前飯塚市教育長)
コーディネーター：古市 勝也(中国・四国・九州地区生涯教育実践研究交流会 代表世話人)

<【第2部】登壇者プロフィール>

●鈴木 昭博 茨城県(茨城県教育庁総務企画部生涯学習課 社会教育主事)

茨城県古河市立小学校、五霞町中学校、古河市教育委員会、国立那須甲子青少年自然の家勤務を経て、平成25年から現職に至る。平成27年度に関東圏域での地域づくりに関わる実践研究交流の場として「関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会」を開催する。「学びを通しての地域活性化」の面で成果をあげている各県の実践を発表し、話し合いを通して経験・知識・技術を学び合う交流会とする。

●坂井 孝吏 高知県(前高知県教育委員会事務局生涯学習課主任社会教育主事、現在 高知県大月町立大月中学校)

本交流会第34回大会から高知県実行委員。土佐清水市立中学校教諭を経て、平成24年度から平成27年まで高知県教育委員会事務局生涯学習課に在籍。平成27年度には高知県社会教育実践交流会を開催する。現高知県大月町立大月中学校。

●中川 忠宣 大分県(大分大学COC+推進機構 特任教授)

本交流会第22回大会～第34回大会の大分県実行委員。大分県教育庁生涯学習課社会教育監、大分大学高等教育開発センター教授を経て、本年度より大分大学COC+推進機構 特任教授となる。本交流会を大分県流に開催することを決意し、県教育委員会と、開催地の組織「東国東地域デザイン会議」で協議し、2年間の検討の末に、おおいた教育の日(平成17年3月31日施行)制定を受けて、平成19年度から地域発「活力・発展・安心」デザイン実践交流会を開催する。

●降旗 友宏 長崎県(元長崎県教育庁生涯学習課長、現在 内閣官房日本経済再生総合事務局 参事官補佐)

平成23年に文部科学省から長崎県教育庁生涯学習課長に就任。平成23年5月に現職・OBの社会教育行政関係職員や社会教育関係団体のメンバー等を中心に、「長崎県の社会教育の振興を図り、地域や家庭の教育力の再生」を目指した長崎県社会教育支援「草社の会」が結成、立ち上げ等を支援。以後、福岡県実行委員と共同して、会の主催事業「生涯教育まちづくり移動フォーラム」を実施。

●森本 精造 福岡県(前本交流会代表世話人 前飯塚市教育長)

福岡県社会教育課長、福岡県立社会教育総合センター所長、穂波町教育長、飯塚市教育長、本交流会の創設者。穂波町時代、西日本で初めて「学校選択制」を導入。全公立小学校に導入した穂波「子どもマナビ塾」、合併後の飯塚市では「熟年者マナビ塾」など多くの先駆的行政施策の開発を手掛けてきた。前本交流会世話人代表。

●古市 勝也 福岡県(中国・四国・九州地区生涯教育実践研究交流会 代表世話人)

九州共立大学・九州女子大学・同短期大学生涯学習研究センター所長、九州共立大学スポーツ学部教授、九州共立大学地域連携推進室長を経て、日本生涯教育学会生涯学習実践研究所福岡センター長、「西日本『生涯学習御学友』ネットワーク」世話人代表、第34回から本交流会代表世話人を務める。

第34回大会開催報告

●大会期日 平成27年5月16日(土)～17日(日)

●場 所 福岡県立社会教育総合センター

実践研究発表者
司会者及び
県別参加者

中国地区			
県名	実践研究発表者数	司会者数	参加者数
山口	4	0	27
広島	1	1	16
島根	4	2	18
鳥取	4	0	27
岡山	1	0	5
計	14	3	93

九州地区			
県名	実践研究発表者数	司会者数	参加者数
福岡	3	3	139
佐賀	2	2	23
熊本	1	2	4
大分	8	1	32
宮崎	1	0	5
長崎	2	1	25
鹿児島	2	2	7
沖縄	1	1	18
計	20	12	253

四国地区			
県名	実践研究発表者数	司会者数	参加者数
徳島	1	0	4
愛媛	1	1	5
高知	2	0	8
香川	0	0	0
計	4	1	17

中国・四国・九州地区以外			
県名	実践研究発表者数	司会者数	参加者数
東京	0	0	7
大阪	0	0	7
愛知	0	0	1
静岡	0	0	1
茨城	0	0	1
兵庫	0	0	1
神奈川	0	0	2
計	0	0	20

	発表者数	司会者数	参加者数	実行委・登壇者数	総参加者数
総計	38	16	383	33	470

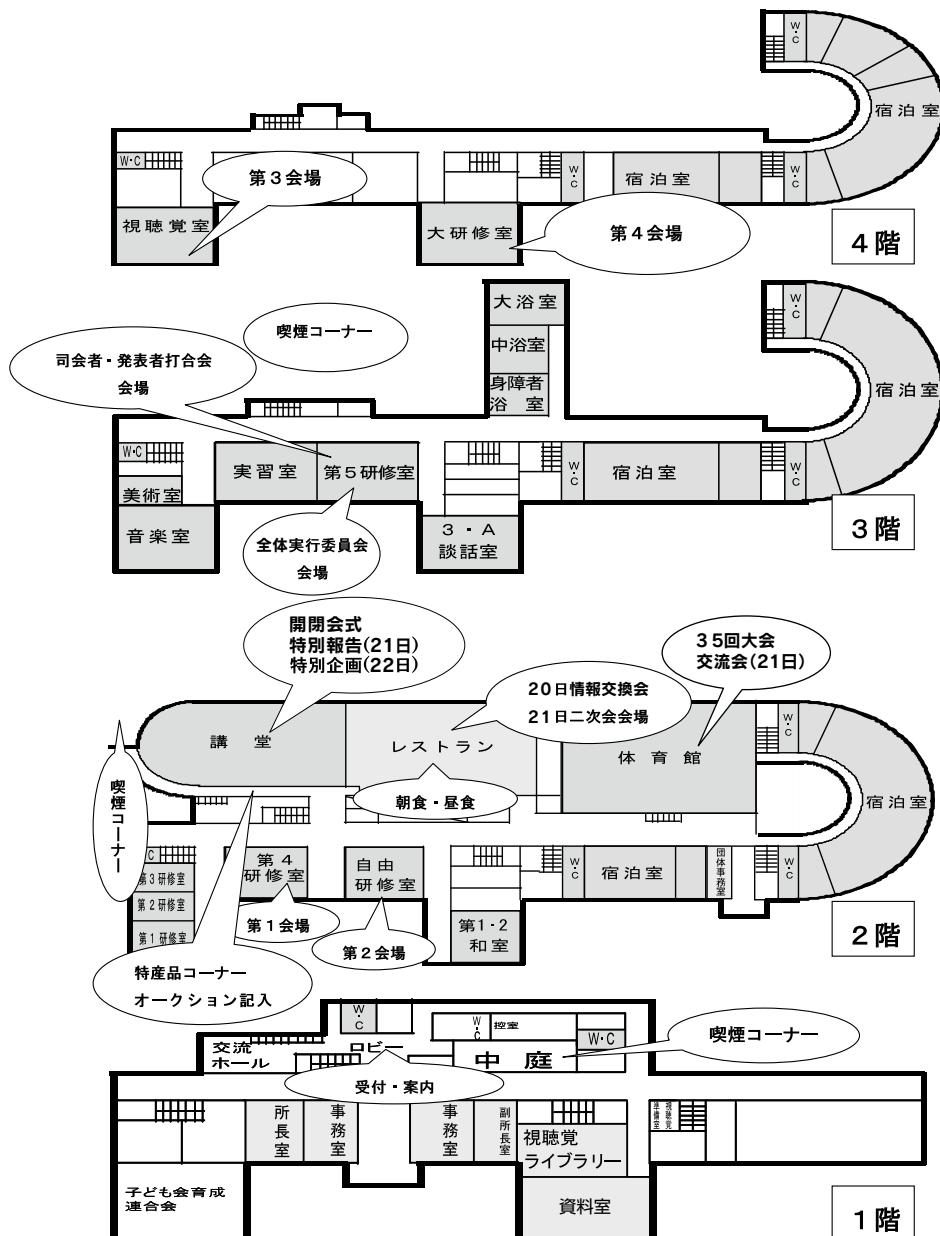
特産品、稀少品ありがとうございました
第34回大会も皆様のご協力により、
たくさんの特産品が集まりました。ありがとうございました。

番号	氏名・団体名(様)	県名	所属名	特産品名
1	森 三保	福岡県	社会教育研究所	白岳(しろ)
2	田中崇詞	鳥取県	米子市淀江支所	大山 焼きショコラケーキ
3	田中崇詞	鳥取県	米子市淀江支所	因幡の白うさぎ
4	田中崇詞	鳥取県	米子市淀江支所	大どじょうすくいまんじゅう(3個セット)
5	大下修一	鳥取県	青少年育成伯耆町町民会議	食味グランプリ「きぬむすめ」等米 3Kg
6	大下真史・谷本麻衣子	鳥取県	南部町教育委員会	南部町スペシャルセット(手ぬぐい、赤岩せんべい)
7	松本英俊	長崎県		平戸芋焼酎 コックス
8	赤田博夫	山口県	山口VOLOVOLOの会	山口の酒(2本)
9	大城ゆう	沖縄県	西原町教育委員会	塩 もずくクッキー
10	前田光智	沖縄県	西原町教育委員会	ハイナツブレミミガー・島らっきょう 1セット
11	金子 崇	沖縄県	西原町教育委員会	シーサー
12	呉屋寛文	沖縄県	西原町教育委員会生涯学習課	マンゴー梅酒
13	仲里優子	沖縄県	西原町	沖縄おやつセット
14	小谷、林	沖縄県	西原町教育委員会	ピーナツ糖&涙そうそう(セット)
15	小谷、林	沖縄県	西原町教育委員会	豚肉みそ
16	神谷輝美	沖縄県	西原町子ども会育成連絡協議会	沖縄島ぞうり(うちなーしまぞうり)(男性用 27cm)
17	神谷輝美	沖縄県	西原町子ども会育成連絡協議会	沖縄島ぞうり(うちなーしまぞうり)(女性用 25cm)
18	新垣正男	沖縄県	西原町教育委員会生涯学習課	琉球泡盛
19	鶴木孝夫	鹿児島県	姶良市教育委員会	芋焼酎 小松帯刀(こまつたてわき)
20	竹添辰也	鹿児島県	鹿児島市教育委員会	かるかん
21	森本精造	福岡県	NPO法人養老共生まちづくり支援協会	テトラエッグ
22	原 敦代	島根県	荒木コミュニティセンター	焼ゆめのは(あぶりわかめ)
23	三浦清一郎	福岡県	生涯学習・社会システム研究者	ワイン(シャトー・カソー)
24	古市勝也	福岡県	九州共立大学	長沢ワイン
25	古市勝也	福岡県	九州共立大学	薩摩焼酎 小松帯刀
26	香月利都子	福岡県	大会事務局	松竹梅白壁蔵 濁 スパークリング清酒
27	河合淳一	鳥取県	鳥取県教育委員会社会教育課	はちみつ100%のお酒 メイリーン
28	眞鍋幸一	愛媛県	年輪塾	イタリアワイン(白)
29	眞鍋幸一	愛媛県	年輪塾	イタリアワイン(赤)
30	関 弘紹	佐賀県	佐賀県文化スポーツ部まなび課	佐賀のり(味のり2、焼きのり、塩のりセット)
31	上野、弘瀬	福岡県	北筑後教育事務所	久留米ラーメン
32	入江雅史	鳥取県	大山町大山公民館	板わかめとみきぼんだセット
33	和田 明	島根県	社団法人鉄の歴史村歴史文化研究所	たまごかけごはんしょうゆ「おたまはん」
34	紫園来未	佐賀県	オフィスしおん	ちんすこう
35	佐川 良	愛媛県	愛媛のおやし井戸端会議	みきゃん
36	福原洋子	岡山県	岡山県教育庁	日生 カキオコース
37	大名克英	広島県	広島県立生涯学習センター	尾道ラーメンと三原の酒屋のトートバック セット

番号	氏名・団体名(様)	県名	所属名	特産品名
38	佐藤倫子	熊 本 県	生涯学習推進センター	くまもんクリアファイル&ふせん セット
39	佐藤倫子	熊 本 県	生涯学習推進センター	くまもんの熊本ラーメン(2人前)
40	佐藤倫子	熊 本 県	生涯学習推進センター	熊本名物 元祖太平燕(タービーエン)(5食入り)
41	佐藤倫子	熊 本 県	生涯学習推進センター	阿蘇名物 だんご汁(1人前)
42	佐藤倫子	熊 本 県	生涯学習推進センター	有明海産 焼き海苔
43	竹内一久	宮 崎 県	宮崎市立江南小学校	焼酎 おび杉
44	財津敬二郎	大 分 県	大分県生涯学習会	日田全麴
45	橋本香織	宮 崎 県	高千穂町立高千穂小学校	高千穂本格純米焼酎 露々(ろろ)
46	西山香代子	山 口 県	やまぐちネットワークエコー	大内館
47	平田瑞杏	大 阪 府	さやま未来プランナー(大阪狭山市観光大使)	ざやりんせんべい おまけクリアファイル
48	諏訪原裕子	鹿 児 島 県	かごしま県民大学中央センター	さつま島美人
49	鈴木真理	静 岡 県	青山学院大学	箱根駅伝青山学院セット
50	新開英毅	徳 島 県	徳島大学生涯学習研究院「徳島まなび連」	金長まんじゅう
51	吉岡 滋	徳 島 県	徳島大学生涯学習研究院「徳島まなび連」	のり
52	ビッグフィールド大野隊	広 島 県	ビッグフィールド大野隊	もみじまんじゅう
53	安達 昇	東 京 都	国立教育政策研究所社会教育実践研究センター	丸真正宗
54	磯江純子	鳥 取 県	北米町教育委員会生涯学習課	名探偵コナン 探偵せんべい
55	菅 雄二	長 崎 県	南島原市教育委員会	南島原ソーメン(2個)
56	岸本隆治	鳥 取 県	鳥取県教育委員会事務局中部教育局	純米吟醸酒 琴浦
57	市川重彦	東 京 都	国立教育政策研究所社会教育実践研究センター	東京国立博物館 鳥獣戯画てぬい
58	渡辺 徹	東 京 都	国立教育政策研究所社会教育実践研究センター	国立西洋美術館(上野)GUERCINO図録
59	白木美和	山 口 県	すろーふーどらいふ(和(のどか))	東洋美人 水害復興限定酒 IPPO
60	内藤 遊	広 島 県	広島県立生涯学習センター	炭火焼焼あご だし道楽&瀬戸内レモンイカ天
61	柳川明美	広 島 県	広島県立生涯学習センター	はっさくゼリー
62	志々田まなみ	広 島 県	広島経済大学	かき醤油味付のり(3名分)
63	川淵 宏	長 崎 県	平戸市教育委員会生涯学習課	原酒 おろくにんさま
64	うめちゃん	長 崎 県	こども政策局	長崎県庁生協とコラボレートした吉岐焼酎
65	金城秀和	沖 縄 県	西原町教育委員会	スッバイマン
66	喜屋武則政	沖 縄 県	西原町教育委員会	紅いもタルト
67	高橋伊尚	島 根 県	奥出雲町教育委員会	大吟醸 玉鋼
68	田中靖子	島 根 県	安養寺サタデースクール	純米吟醸 七冠馬
69	松尾 修	長 崎 県	草社の会	携帯灰皿・小物入れ
70	佐藤健一郎、阿部泰宏、隈元修士	宮 崎 県	宮崎県生涯学習課 他	宮崎県産「太陽のタマゴ」つばいマンゴー
71	松尾 修	長 崎 県	草社の会	しおり
72	松尾 修	長 崎 県	草社の会	コードクリップ
73	中村和夫	山 口 県	GOPPOええぞなクラブ	羽衣もなか
74	赤田尚子	山 口 県	山口VOLOVOLOの会	和菓子 伝助
75	松田愛子	広 島 県	広島県教育委員会生涯学習課	ないしょの酒 どぶ おまけ瀬戸内レモンイカ天
76	安田隆人	岡 山 県	浅口市立鶴方東小学校	吉番館尾道ラーメン
77	東川絵葉	岡 山 県	岡山県教育庁生涯学習課	若採りした白桃のピクルス
78	岡田正彦	大 分 県	大分大学	雛祭(だっさい)
79	松浦	広 島 県	府中町	三ツウイナリー デラウェアワイン
80	津川	広 島 県	府中町	カーブふりかけ
81	幅野得恵	広 島 県	府中町教育委員会	カーブかつ
82	米田珠美	広 島 県	府中町	かっぱえびせん 匠海
83	大島まな	福 岡 県	九州女子大学	博多明太子かりんとう
84	上野敦子、都野利枝	山 口 県	井関にここクラブ	かきもち 2種
85	上野敦子、都野利枝	山 口 県	井関にここクラブ	ごま煮いわし ごまふりかけ
86	森 和明	長 崎 県	長立会(ちょうりゅうかい)	篠笛(ドレミ音階) 5名分
87	森 和明	長 崎 県	長立会(ちょうりゅうかい)	篠笛(ドレミ音階) 1名分
88	森 和明	長 崎 県	長立会(ちょうりゅうかい)	篠笛(お囃子) 8名分
89	森 和明	長 崎 県	長立会(ちょうりゅうかい)	篠笛(お囃子) 4名分
90	三宅千恵	岡 山 県	岡山教育事務所	コロロ桃太郎〜ピーチ(ワフー〜
91	三宅千恵	岡 山 県	岡山教育事務所	白桃入り きびだんご
92	三宅千恵	岡 山 県	岡山教育事務所	マスカット入り きびだんご
93	三宅千恵	岡 山 県	岡山教育事務所	カルピス岡山の白桃
94	福原靖子	島 根 県	吉賀町教育委員会	ブルーベリー酒トマト酒
95	須股恵美子	大 分 県	大分県教育庁社会教育課	大分県大山町のバケラの香りのする梅酒
96	須股恵美子	大 分 県	大分県教育庁社会教育課	くろめのみそ汁
97	須股恵美子	大 分 県	大分県教育庁社会教育課	ブルックスコービー(ブレンド)50個
98	須股恵美子	大 分 県	大分県教育庁社会教育課	ブルックスコービー(モカブレンド)50個
99	西平博人	沖 縄 県	NPO法人1万人井戸端会議	繁多川 塩せんべい
100	伊藤明善	福 岡 県	東峰村教育委員会	小石原焼コービーカップ 2個
101	土屋佳子	沖 縄 県	NPO法人マチルダおもちゃ協会	沖縄の珍味ミミガー(2袋セット)
102	土屋佳子	沖 縄 県	NPO法人マチルダおもちゃ協会	沖縄の珍味 スッバイマン
103	大城喜江子	沖 縄 県	まちづくりNPOうらそえ浦添市立森の子児童センター	砂糖天ぷら(3名分)
104	大城喜江子	沖 縄 県	まちづくりNPOうらそえ浦添市立森の子児童センター	くーすセット
105	縄田早苗	大 分 県	大分県立社会教育総合センター	姫島特産くるまえばい エビのかりんとう かぼす塩
106	石丸太郎	高 知 県	生涯学習課	ゆずの酒
107	澤田美佐	高 知 県	地域支援企画員	土佐れいほく 特産品セット
108	安部博美	大 分 県	NPO法人こどもサポートにっこにこ	手作りあられ(自然食)(5名分)
109	河内ひとみ	広 島 県	大竹市立玖波公民館	玖波公民館「学びのカフェ」オリジナルグッズ(Tシャツ&オリジナルCD)
110	岸 多津、岸 睦	鳥 取 県	鳥取市立賀露地区公民館	鬼太郎どらやき(2名分)
111	西島健夫	島 根 県	益田市豊田西益田公民館	純米酒
112	古川昭人	福 岡 県	立花町公民館	八女の農産物セット
113	向井由香利	鳥 取 県	倉吉市役所教育委員会事務局生涯学習課	倉吉市くらすけくんTシャツ(6名分)
114	長崎県教育庁生涯学習課	長 崎 県	長崎県教育庁生涯学習課	中華菓子よりより

なお、紙面の都合上、敬称と職名は省略させて頂きました。万一、誤字や脱字、または、記入漏れがありましたときは、御容赦下さいますようお願いいたします。

会場案内図



「ふくおか社会教育ネットワーク」

にて本大会の発表事例は、掲載されます！



その他、福岡県内の社会教育に関するイベント・施設・HPリンクが見られる充実したホームページです。

ホームページアドレス

<http://www.fsg.pref.fukuoka.jp>

最新事例
「新しい風」を
クリックして
ください！

ぜひ一度ご覧ください！

福岡県立社会教育総合センター

住所 〒811-2402 福岡県糟屋郡篠栗町大字金出3350-2
TEL 092-947-3512 FAX 092-947-8029